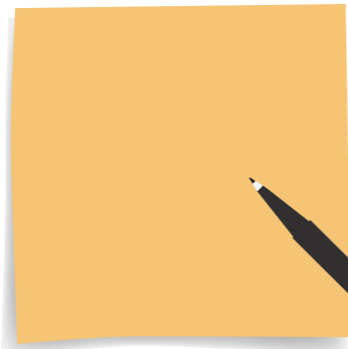


しもたか ブック

みんなで作る
明日のしもたかブック



下高井戸のまちを
一緒に作りませんか？



下高井戸のまちづくり
やっぱり面白い。

みんなで作る明日のしもたかブック

目次

しもたかブックの役割	1
しもたかブックの位置づけ	1
まちの歴史と魅力	2
まちづくりの基本理念・目標	4
まちづくりの目標①	6
まちづくりの目標②	8
まちづくりの目標③	10
将来のまちへの想い	12
これまでの・これからのまちづくりの取組み	14
資料編	16



対象範囲：下高井戸駅周辺

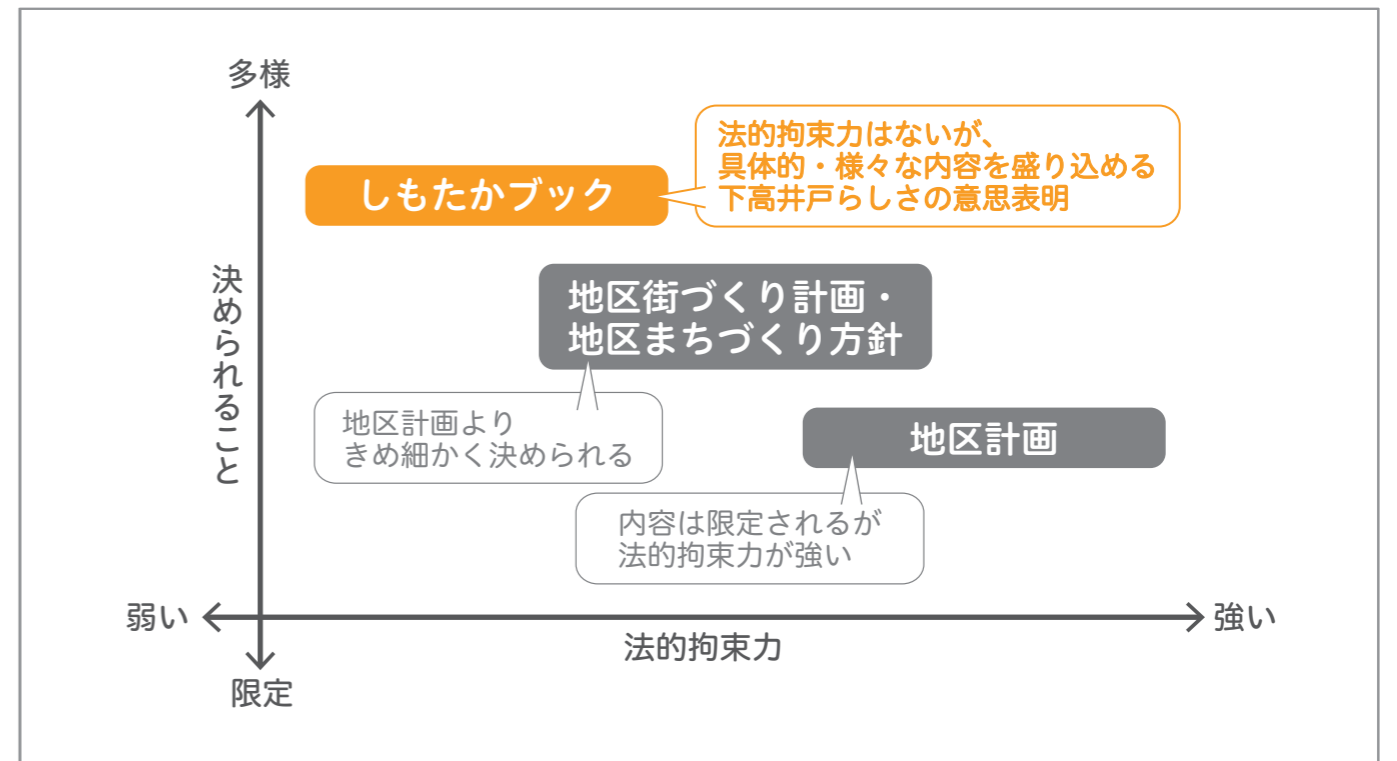


しもたかブックの役割

しもたかブックは、下高井戸のまちの魅力や課題、具体的なまちづくりの将来像や方向性などをまとめたものです。「下高井戸駅周辺地区街づくり協議会」が中心となり、地域の方々の様々な意見を参考にしながら作成しました。

しもたかブックの内容は、作成に携わった方々だけでなく、生活している人、商売を営んでいる人、学生など、まちに関わる皆さまと共有し、同じ方向性でまちづくりに取り組むことで、まちの魅力をさらに高めていくことができると考えています。

具体的なまちづくりの手法やしもたかブックの内容は社会情勢やまちづくりの進捗等に応じて考え、見直しを加えていきます。



しもたかブックの位置づけ

法的拘束力はありませんが、具体的なまちづくりの将来像を描けます。

まちの歴史と魅力



まちと都心・郊外を結ぶ、交通至便な立地を育む京王線
(提供：京王電鉄株式会社)



昭和25年～28年頃の下高井戸駅周辺の様子
(作：芹澤政一さん)



商店街の周囲に広がる閑静な住宅街



地元の人たちから愛される映画館「下高井戸シネマ」



住宅街の中にある、家族で収穫を楽しめるシェア畑

魅力が引き継がれ、新しい魅力も増えています。

京王線の高架化を機に、まちづくりの検討を始める



ゆったりとした速度で走る世田谷線のある風景
(提供：東急電鉄株式会社)

関東大震災後、人口増加に伴い、商店が増えて生鮮品の市場ができる

発展が加速して住宅街ができ、商店の数も比例して増える

戦後、郊外住宅地として発展し人口が増える

生鮮三品の店が増え近隣のまちからも買いにくるようになる

商店街の道路幅をせず、両側店舗の商店街を維持する

2014年
(平成26年)

京王線連続立体交差事業開始

1956年
(昭和31年)
下高井戸市場開業

1932年
(昭和7年)
市域編入

1937年
(昭和12年)
日本大学文理学部移転

1913年
(大正2年)
京王線下高井戸駅開業

1887年
(明治20年)
松沢小学校設立

1603年頃
(慶長8年頃)
甲州街道に宿場町「下高井戸宿」が設けられる



区内でも珍しい商店街の真ん中に位置する松沢小学校



見事な桜並木が出迎えてくれる日本大学文理学部



生鮮三品を核とする賑わいの中心でもある駅前市場



学生や買い物客、家族連れが行き交う日大通り

くつろぎ

買い物や散歩中に休憩できる場所が増えています。店の雰囲気通りに伝わってきます。



連なり

地域に根ざした小さな店舗が今も昔も軒を連ね、多くの人で賑わっています。



賑わい

生鮮三品を中心に商品が店先に溢れ出すかのような店舗構えは、人を誘い、まちに賑わいをもたらしています。



ふれあい

店主や地域の人たちとのやりとりがちこちで生まれています。地域では多世代の交流があります。



懐かしさ

今も昔懐かしい面影を残す歴史ある建物やお店があります。



基本理念 まちの情緒やつながりを大切にして、暮らしやすい未来を創る

先代から、ひいては江戸の宿場町時代から続くまちの特色を失わず、これからの時代に適応したまちづくりを進める。

現状把握

まちの魅力

- 暮らしに密着した地元商店街
- 人々のふれあいが生まれる通り
- 小学校から大学まである学生のまち
- 地域で人を育てる人情味のあるまち
- 都心にほど近い交通至便な立地で、暮らしにも商売にも適したまち



魅力を高める

コミュニティを育む

社会情勢 / まちの課題

- 京王線高架化や都市基盤（駅前広場や道路など）の整備
- 子育て世代・高齢者の増加
- 新しい生活様式によるライフスタイルの変化
- 人が集い、交流する場が少ない
- 鉄道により南北のアクセスがしにくい
- 災害時の避難等に不安がある

課題を解決する

目標 1

商店街のあちこちでふれあいが生まれるまち

P6~7



- 方向性 a 店主の人柄があふれる多様な個店を増やす
- 方向性 b 会話や交流を促す店構えを工夫する
- 方向性 c 商店街周辺を歩行者に優しい場所にする

目標 2

街と人、人と人のつながりを育むまち

P8~9



- 方向性 d 多世代が学び、育ち、活躍できるようにする
- 方向性 e 家族や地域の人たちと交流できる環境を整える
- 方向性 f 住民主体のまちづくりを進める仕組みをつくる

目標 3

防災力が高く、多彩な活動が生まれるまち

P10~11



- 方向性 g 交通結節点としての利便性を高める
- 方向性 h 駅周辺に遊べる場所や集える場所を創る
- 方向性 i 安全安心な基盤を整える

方向性 a 店主の人柄があふれる多様な個店を増やす

現状

- ・市場の場所に駅前広場が計画されている
- ・市場の代替地や代替機能の計画はない
- ・個店が連なり、昭和の香りが残っている
- ・似た種類の店が多い

ねらい

- ・生鮮三品を核とした、食の豊かなまちを目指す
- ・食だけでなく、幅広い業種の出店を促す
- ・下高井戸らしく個性豊かな個店を増やす

市場の機能や雰囲気を引き継ぐ



生鮮三品を核とした、暮らしに密着した商店街を引き継ぐ

世田谷線の魅力を活かした店舗展開を図る



世田谷線のスケールに合った店舗展開、世田谷線の眺めやフォトスポットを意識した店づくりの検討

個店の出店を促す仕組みをつくる

店舗兼用住宅やチャレンジスペースなど、運営できるシステムの検討

方向性 b 会話や交流を促す店構えを工夫する

現状

- ・店主とのやりとりが商店街の大きな特徴である
- ・通りを歩いていると賑わいを感じる
- ・商店街は地域の人たちの交流の場でもある
- ・商店街にくつろげる場所が少ない

ねらい

- ・既存店、新規店、小さな店、大きな店、いずれも店主とのやりとりが生まれ、店の賑わいを連続させる
- ・地域の人たちとの何気ない会話を楽しんだり、買い物途中で休憩できるスペースをつくる

ふれあいを大切にする



店主とやりとりしやすい店の造りとし、店の賑わいが通りに伝わるようにする

賑わいを連続させる



大きな建物に入る店舗も閉じた店の造りではなく、通りに開いた造りとする

くつろげる場所をつくる



休憩できる場所や落ち着いて話せる場所などを、店先や通りに散りばめる

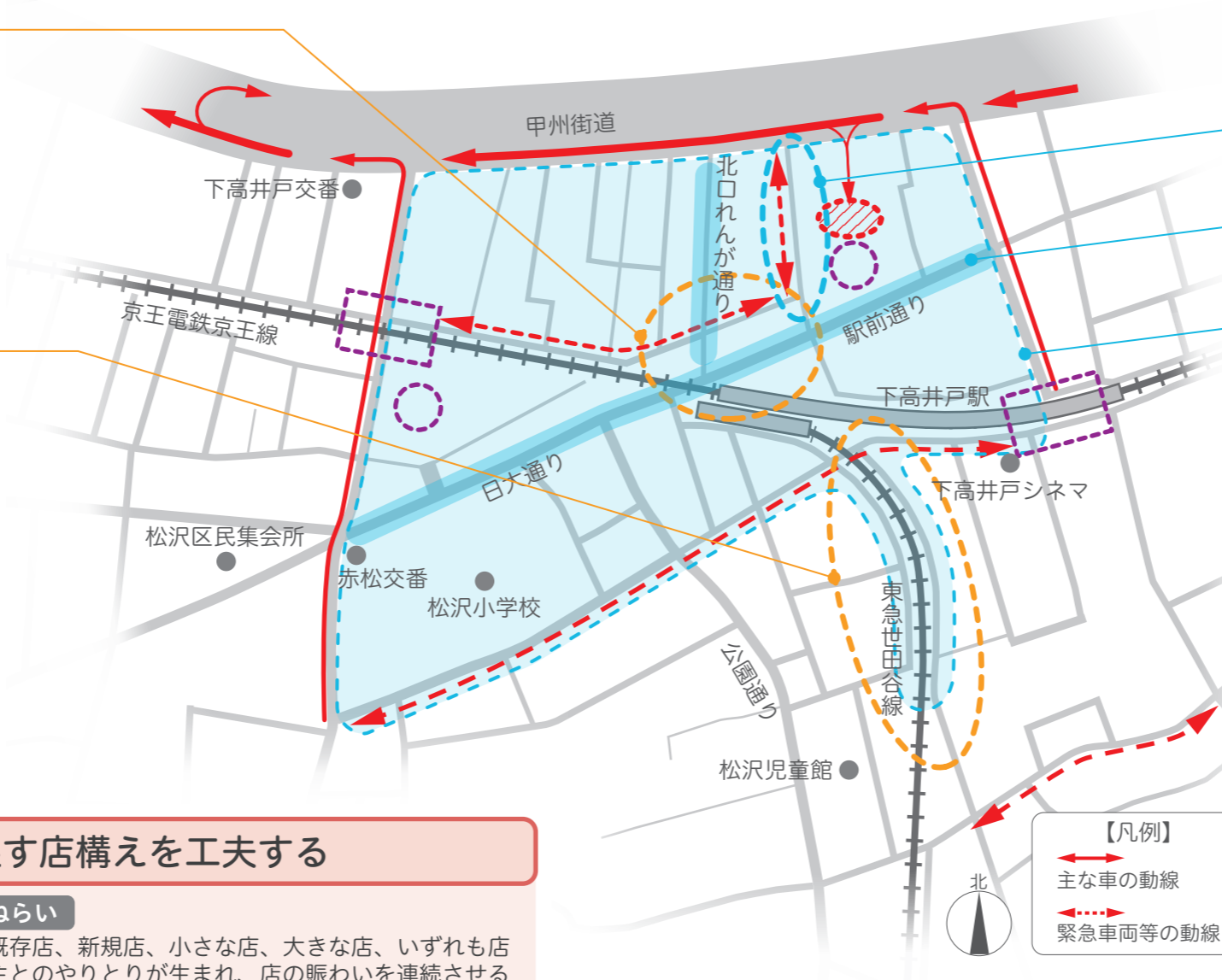
方向性 C 商店街周辺を歩行者に優しい場所にする

現状

- ・商店街を通過する自転車が多い
- ・狭い道路を自動車が通過している
- ・電柱が歩道を狭くし、視線を遮っている
- ・看板やサインの視認性がよくない

ねらい

- ・歩車分離し、駅を中心に歩行者優先の場所にする
- ・歩行者空間を快適にする
- ・初めて来た人にも分かりやすい案内や街並みとする



歩行者優先道・エリアを設定する

緊急車両が通れるようにし、**広い歩道**をつくる

商店街は**歩行者優先道**とする

商店街・駅を中心に**歩行者優先エリア**とする

歩行者優先エリア周辺に駐車場・駐輪場を設ける

周辺からの車利用の利便性を高める**大規模駐車場**をつくる

- 駐輪場(通勤・通学用)
 - 駐輪場(買い物用)
- まちの中心部を避ける

自動車対策を検討する

荷さばき車両対策や超小型モビリティ(1~2人乗り程度の車両)利用などを含めた歩行者優先を実現するための検討

自転車利用のマナーづくりを進める

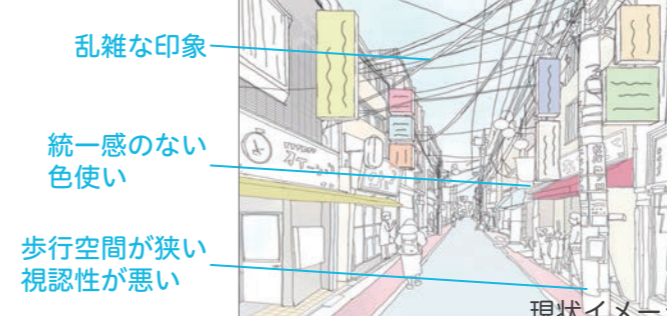


ユニバーサルデザインの取り組みを検討する

店先にインターホンを設置して店の人を呼べる仕組み、筆談ボード、簡易スロープなど、商店街としての取組みの検討

分かりやすく魅力的な街並みを整備する

街並みの統一感を出すため、まちの色使いや看板のルール化、ベンチなどストリートファニチャーの設えの検討



乱雑な印象

統一感のない色使い

歩行空間が狭い視認性が悪い

現状イメージ

すっきりした印象(無電柱化)

統一感のある色使い

歩行空間が広い視認性が良い(無電柱化)

整備後イメージ

方向性 d 多世代が学び、育ち、活躍できるようにする

現状

- ・商店街の中に小学校がある
- ・「まち」で子どもを育てる特徴が引き継がれている

ねらい

- ・商店街が学生の受け皿となるため、各学校との関係を広げ、地域コミュニティを育む
- ・まちの歴史や文化を引き継ぎ、新たな文化を育む

学び、活動できる場所を増やす

高架下、空き店舗、共同化・再開発の建物内等



(例) 高架下を活用した学びの場



(例) 高架下を活用した工房やカフェ

多種・多世代の人材を発掘し活用する

学生が地域から学ぶ、地域の人が学校を活用する



(イメージ) 学生と商店街との交流

周辺の教育施設

- 緑丘中学校
- 日本大学 文理学部
- 松沢中学校
- 日本大学 櫻丘高等学校
- 松原高等学校

新しい機能や文化をまち全体に散りばめる

公共的・文化施設を設ける

- ・自由に集まれる集会施設
- ・演劇や音楽のホール
- ・スポーツやダンスができる場所
- ・フレキシブルに利用できる場所
- ・子育て施設
- ・キッズスペース など

まちの歴史の情報を発信する



(例) 昔ながらの街灯



(例) サインによる紹介

方向性 e 家族や地域の人たちと交流できる環境を整える

現状

- ・商店街には子どもを見守ってくれる人の目があり、子どもと商店街の人が顔見知りである
- ・商店街の道幅は広くなく、行き交う人が挨拶できる適度な幅である
- ・遊べる場所や集える場所が商店街の近くにない

ねらい

- ・商店街が学生の受け皿となるため、商店街の中に学生の居場所をつくる
- ・買い物の前後に集い、遊べる場所を整備して、回遊性を高める

永福体育館
ビーチバレーコート
おおぞら公園 など

甲州街道北側の施設を利用しやすくする

声かけしやすい道幅にする



ちょっとした憩いの場や集いの場、子どもの遊び場を増やす



(イメージ) ちょっとした憩いの場



(イメージ) 子どもの遊び場



松沢小学校を核とした各世代がつながれるコミュニティを構築する

方向性 f 住民主体のまちづくりを進める仕組みをつくる

現状

- ・商店街が各種イベントを実施している
- ・商いや暮らし方に変化が起こり地域力が問われ始めている

ねらい

- ・商店街と地域との関係性を強める
- ・地域の人が人を育てる環境を育んでいる

商店街が駅前広場の管理・運営を行う



(例) しもたか音楽祭



(例) ラジオ体操



(例) 定期市

気軽に立ち寄れるまちづくりの拠点・仕組みをつくる

訪れた人同士が気軽にまちのことについて話せる、人のつながりが生まれるコミュニティカフェのような場所づくりの検討

方向性 g 交通結節点としての利便性を高める

- 現状**
- 京王線の高架化が進められている
 - 駅の近くでバスやタクシーに乗り継げない
 - 京王線の南北で行き来できる場所が限られている
- ねらい**
- バスやタクシーの乗り場を駅の近くに設ける
 - 京王線の高架切替後も世田谷線との乗り継ぎ利便性に配慮する
 - まちの南北をつなげる

公共交通の乗り継ぎの利便性を高める

バスやタクシーの駅の近くへの乗り入れ
ミニバス(すぎ丸)の駅前への導入
ミニバスの世田谷区側の運行

駅前広場(交通系)整備の検討

都市計画道路補助128号線整備に伴う
駅前広場のあり方の検討

コミュニティを活かし 地域防災力を高める



(イメージ) 防災活動

グリーンインフラの 取り組みを検討する

自然環境の多様な機能の積極的な活用
による、地域の魅力や居住環境の向上、
防災・減災等の取り組みの検討

防犯活動を継続する

現在行われている防犯パトロールや声かけの継続

方向性 i 安全安心な基盤を整える

- 現状**
- 災害時の駅周辺の避難や消防活動に不安がある
 - 地域に避難できる場所が少ない
- ねらい**
- 防災のハード面の整備を進め、安全性を高める
 - 防災のソフト面の対策を進め、安心なまちにする

駅前広場(歩行者系)を整備する

避難場所や防災活動の拠点の整備

避難や消防活動が困難な区域の 対策を検討する

建替えによる不燃化、道路拡幅等の検討

避難や防災等の情報を発信する

避難経路や避難方法、災害状況に応じた
対応策等の情報発信

駅直近の緊急車両通行の 円滑化を図る

京王線北側の環境側道(高架化に
伴い整備予定)の活用

高架下を活用して 避難経路を整備する

京王線の南北の通路の確保
防災拠点や安全な施設の整備

無電柱化を進め、 歩行者の安全を確保する



(イメージ) 災害時電柱倒壊
(出典:国土交通省ホームページ)

方向性 h 駅周辺に遊べる場所や集える場所を創る

- 現状**
- サマーフェスティバルは駐車場でやっている
 - 待ち合わせの場所や目印となるものがない
 - 駅周辺に人が集える場所や子どもの遊び場が少ない
 - 駅周辺にみどりが少ない
- ねらい**
- 駅周辺にオープンスペースを確保し、用途に応じて活用できるようにする
 - 多目的に活用できるようにする
 - 多様な技術でみどりを増やす

まちのシンボルをつくる



(例) 待ち合わせ場や憩いの場にもなるシンボル

駅前広場(歩行者系) を整備する



(イメージ) 駅前広場

駅周辺にみどり豊かな 憩いの場をつくる



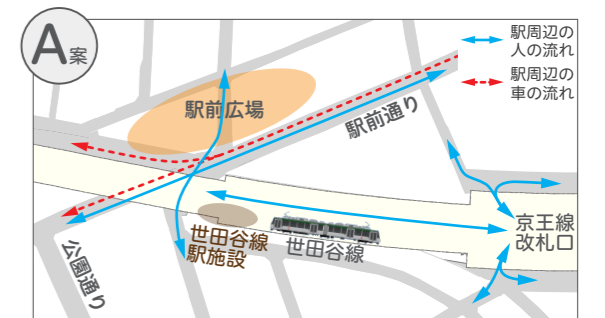
(イメージ) 壁面緑化



(イメージ) 世田谷線沿線緑化

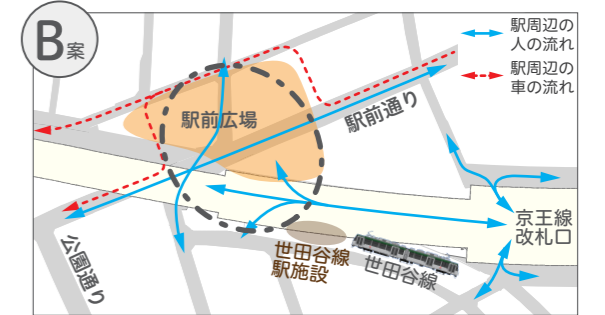
駅前広場(歩行者系)と 高架下の一体利用を図る

駅前広場(歩行者系)の考え方



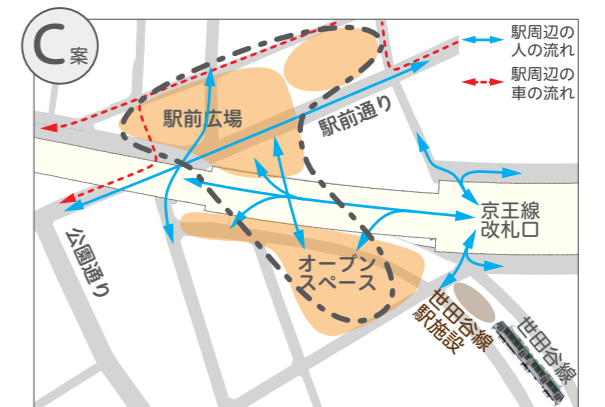
ねらい 商店街との関係性を高める(現在の計画)

- 現在の市場の場所に駅前広場を設ける
- 駅や高架下との関係性は薄い



ねらい 駅前広場と駅・高架下の一体化を図る

- 駅前広場と駅・高架下の空間をつなげる
- 京王電鉄と東急電鉄の協力が必要になる



ねらい 駅の北と南の一体化を図る

- 駅前広場を広げ、南側にオープンスペースを設ける
- そのためには建物の共同化が必要であり、北側・南側共に地権者の合意が必要になる
- 京王電鉄と東急電鉄の協力が必要になる

将来のまちへの想い

下高井戸のまちで「こんなことができたらいいな」という姿を思い浮かべながら、しもたかブックをつくりました。まちの方々の考えは様々であり、実現可能性の程度も様々ですが、そこに共通しているのは、これまでの下高井戸の良さを引き継いで伸ばしていきたいという想いです。そのためにまちづくりの目標を立てました。

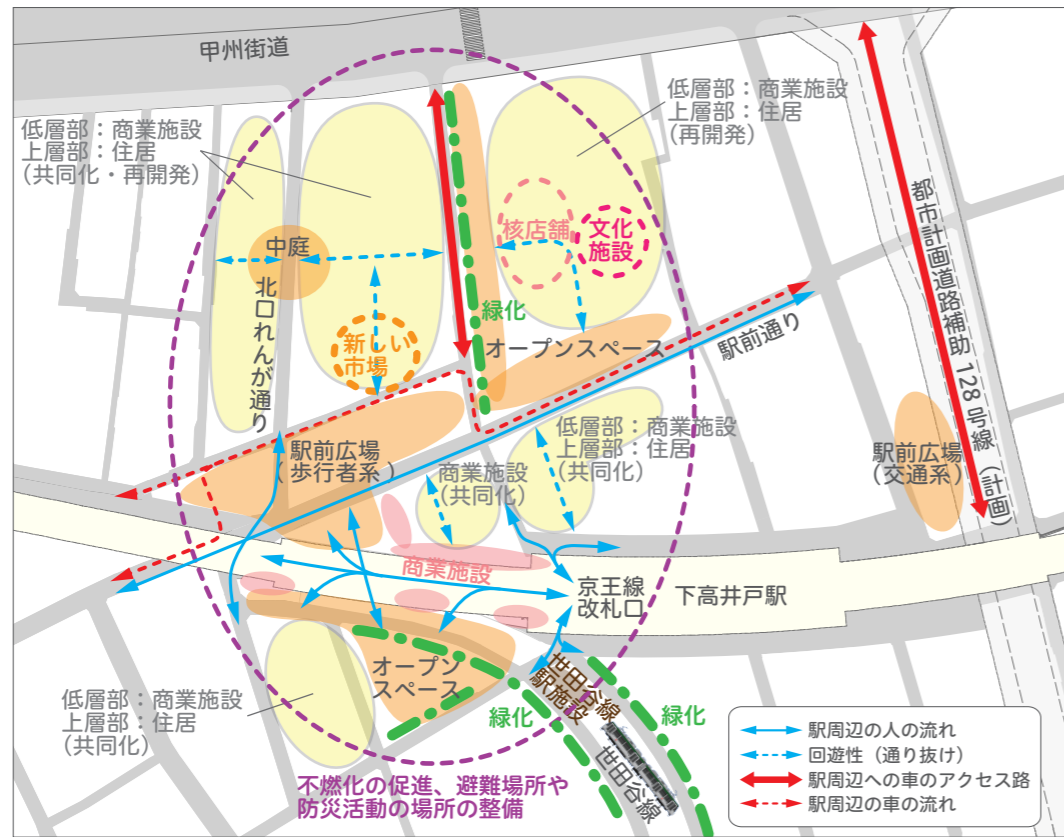
これからも皆さんと一緒に考え、皆さんが思い描くまちの実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。しもたかブックを手元に、あなたの想いも一緒に描いてみませんか？

駅周辺に欲しい施設

街づくり懇談会やまちづくりワークショップ、オープンハウスでまちの皆さんからいただいた主な意見です。

- ・多世代交流スペース
- ・キッズスペース、保育園
- ・ドッグカフェ
- ・公衆トイレ
- ・オープンカフェ
- ・図書館
- ・情報発信（学生向け、歴史・文化）
- ・街の掲示板（歴史・文化を含む）
- ・新しい仕事を生み出す場所（コワーキングスペース）
- ・アンテナショップ
- ・下高井戸らしいホール（多目的ホール） など

街づくり協議会の想い



【遊べる場所・集える場所】

- ・11ページの「駅前広場（歩行者系）の考え方」C案の考えを基に、京王線の南北にオープンスペースを設けて、高架下を含めて一体的に利用できるようにします。
- ・駅の南北で共同化や再開発を行い、建物周辺のオープンスペースを駅前広場（歩行者系）や高架下と連続させます。
- ・駅周辺に遊べる場所や集える場所を増やします。歩行者動線を多様化して回遊性を高めます。

【交通】

- ・自動車の往來を駅前広場のある箇所に限定することで、駅周辺への自動車の乗り入れを減らします。
- ・駅近くまでバスやタクシーを乗り入れることにより、乗り継ぎの利便性を高めます。

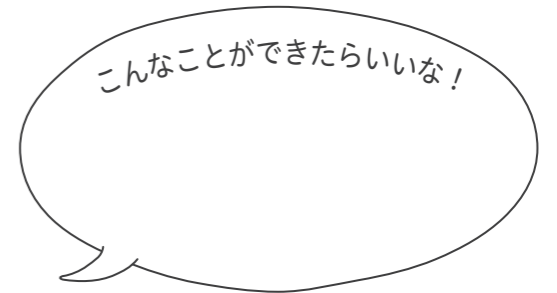
【防災】

- ・建物の共同化等により不燃化を促進し、また、オープンスペースを増やすことで災害時の避難や防災活動に役立ちます。

思い描く将来のまちの姿

まちづくりの目標①から③の実現に向けてまちづくりを進めていくと、まちは少しずつ成長し、以下のような光景がまちのあちこちに増えていくのではないのでしょうか。

ぜひ皆さんも思い描いてみてください



屋外リビングで楽しめます

「今日は外が気持ちよさそう！」
駅前広場にはくつろげるベンチやオープンカフェがあります。日を浴びて過ごしたいとき、気分を変えたいときなど、思い思いに過ごすことができます。

駅近くで思いっきり遊べます

「いつもの場所で会おう！」
駅前広場は地元の人たちの集いの場、遊び場。少し離れた公園に行くのもいいけど、家の近くで遊べるのは家族にとっても安心できます。

思いがけないことに出会えます

「今日はどんなイベントがあるかな？」
駅前広場では商店街の人たちが中心となって各種イベントが開催されているので、外出する楽しみが増えます。

地域の人とつながりが増えます

「〇〇さん！ こんにちは～」
道端での出会い、各種イベントでの出会い、コミュニティカフェでの出会いなど、地域の人たちと話す機会が増え、人のつながりが増えます。

家族で買い物を楽しめます

「ね～早く行こうよ～」
家族で囲らできる場所や買い物の前後に遊べる場所が増えるので、家族揃って出かけることが楽しくなります。

ほっとする瞬間がそこにあります

「あ、招き猫型だ！」
四季折々変化する木々の間を世田谷線がゆったりと通り過ぎていく姿は、昔と変わらず心を落ち着かせてくれます。そんな世田谷線の沿線には店が点在し、皆さんの散策ルートになっています。



京王線が高架化され、世田谷線が移設された場合の駅前広場（歩行者系）のイメージ

子どもの社会性を育みます

「宿題は終わった？」
商店街を含め、地域の人たちと子どもが接する機会がより一層増え、世代を超えたコミュニケーションが自然と取れるようになります。

新しい個店に出会えます

「新しい店ができたみたい！」
チャレンジスペースには個性豊かな店が出店してきます。まちにひいきの店が増えていきます。

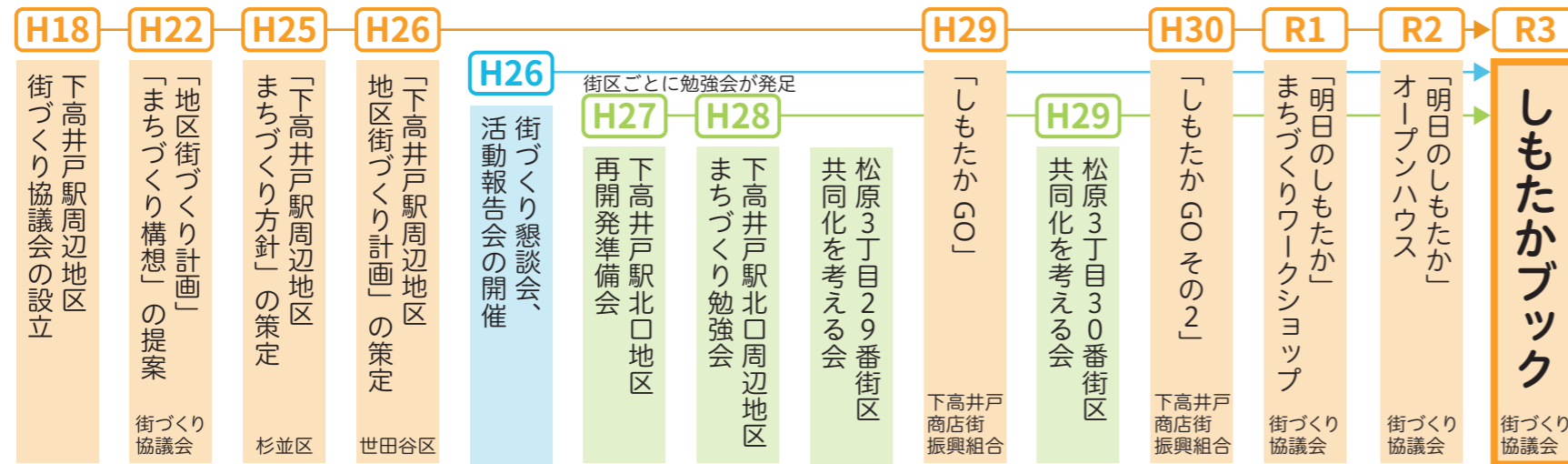
食生活が豊かになります

「今日の献立は何にしよう？」
そんな時は店主との会話の中から料理のヒントをもらえます。レパートリーが増え、食卓が賑やかになります。

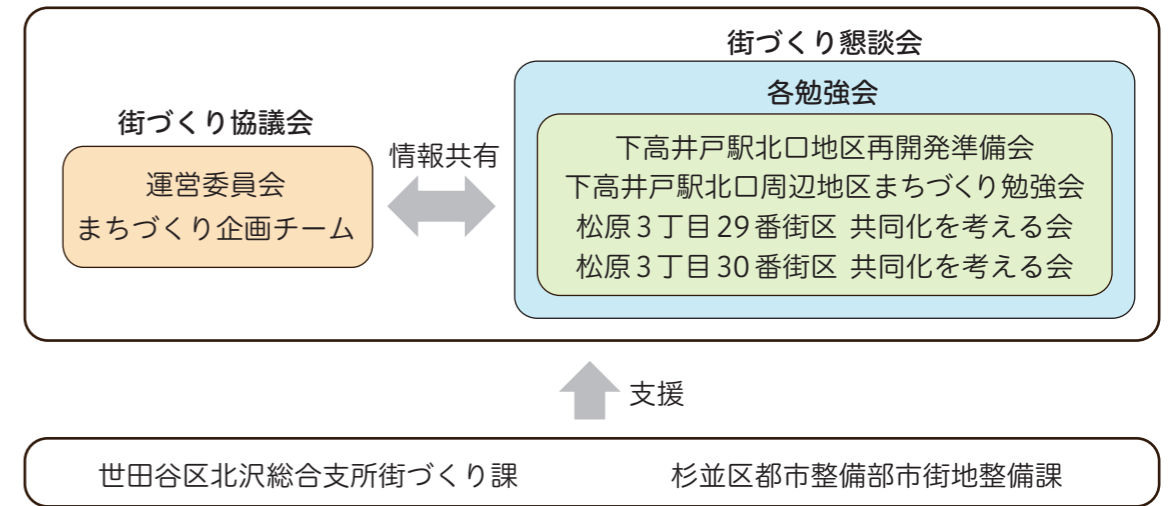


これまでの・これからのまちづくりの取り組み

これまでのまちづくりの取り組み



現在の体制



これからのまちづくりの取り組み

参考 社会実験 (P16)

【実現方法例】

【まず取り組むこと】

【目標・方向性】

【まず取り組むこと】

【実現方法例】

店舗づくりのルール 参考 ルールづくり (P17) 商店街のルール 参考 ルールづくり (P17)	・個店の出店を促す仕組みの検討 ・テナント募集方法 ・世田谷線沿線へ展開 ・店構えの工夫の検討	目標① 商店街のあちこちでふれあいが生まれるま 方向性 a 店主の人柄があふれる多様な個店を増やす 方向性 b 会話や交流を促す店構えを工夫する 方向性 c 商店街周辺を歩行者に優しい場所にする	・市場の代替機能の検討 ・賑わいの連続、くつろぎ場所の設置手法の検討 ・看板等のルール化の検討 ・無電柱化事業の検討	参考 街並み誘導型地区計画 (P16) 地区計画 地元の合意形成 関係機関調整
	・商店街のユニバーサルデザインの検討 ・自転車利用のマナーづくりの検討	目標② 街と人、人と人のつながりを育むまち 方向性 d 多世代が学び、育ち、活躍できるようにする 方向性 e 家族や地域の人たちと交流できる環境を整える 方向性 f 住民主体のまちづくりを進める仕組みをつくる	・学び、活動できる場所の検討 ・公共的、文化施設の内容や場所の検討 ・憩いの場、集いの場、子どもの遊び場の設置場所の検討	
	・各学校との連携の強化 ・歴史情報発信の内容と方法の検討 ・甲州街道北側施設利用のための交渉 ・歴史情報発信の内容と方法の検討 ・気軽に立ち寄れるまちづくりの拠点づくりの検討 ・まち情報の発信 参考 コミュニティカフェ (P17)	目標③ 防災力が高く、多彩な活動が生まれるまち 方向性 g 交通結節点としての利便性を高める 方向性 h 駅周辺に遊べる場所や集える場所を創る 方向性 i 安全安心な基盤を整える	・駅前広場の形態 ・公共交通乗り継ぎ ・東側の改札 ・まちのシンボル ・緑化	
コミュニティづくり 参考 エリアマネジメント (P17)	・防災活動の情報共有 ・防犯活動の継続		・公共交通の乗り継ぎの利便性の検討 ・駅前広場 (交通系) のあり方の検討 ・駅前広場 (歩行者系) のあり方の検討 ・高架下利用の検討 ・駅周辺の防災対策の検討	共同化再開発 ハード面の取り組み

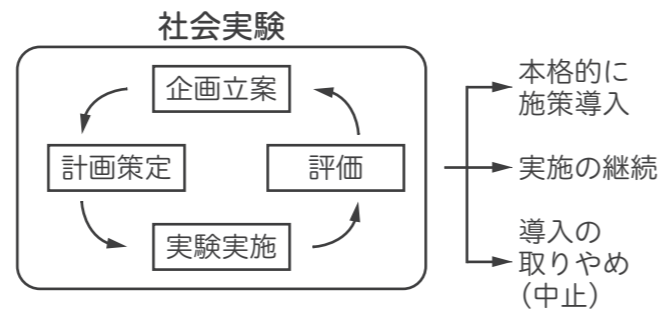
社会実験

社会実験は、新たな施策を行う際に「まずはやってみよう」と場所と期間を限定して試行することです。施策の有効性の検証や問題点の把握を行い、時には施策導入の取りやめの判断材料とします。日本では国土交通省が主導する道路と交通に関する社会実験が大半です。

社会実験の実施は、空間整備や施策の仮説検証だけでなく、地域住民への周知や意見交換、合意形成、当事者を増やす、将来に向けた人材の発掘や育成という効果もあります。

【社会実験例】

- ・路上や路外での荷捌き空間創出や共同配送、駐車場への誘導等により、車両流入の抑制を図る実験
- ・通りの軒先1mの空間を会話や交流を促すために使えるようにして、沿道の活動が通りにしみだすことによる賑わいへの効果を測る実験



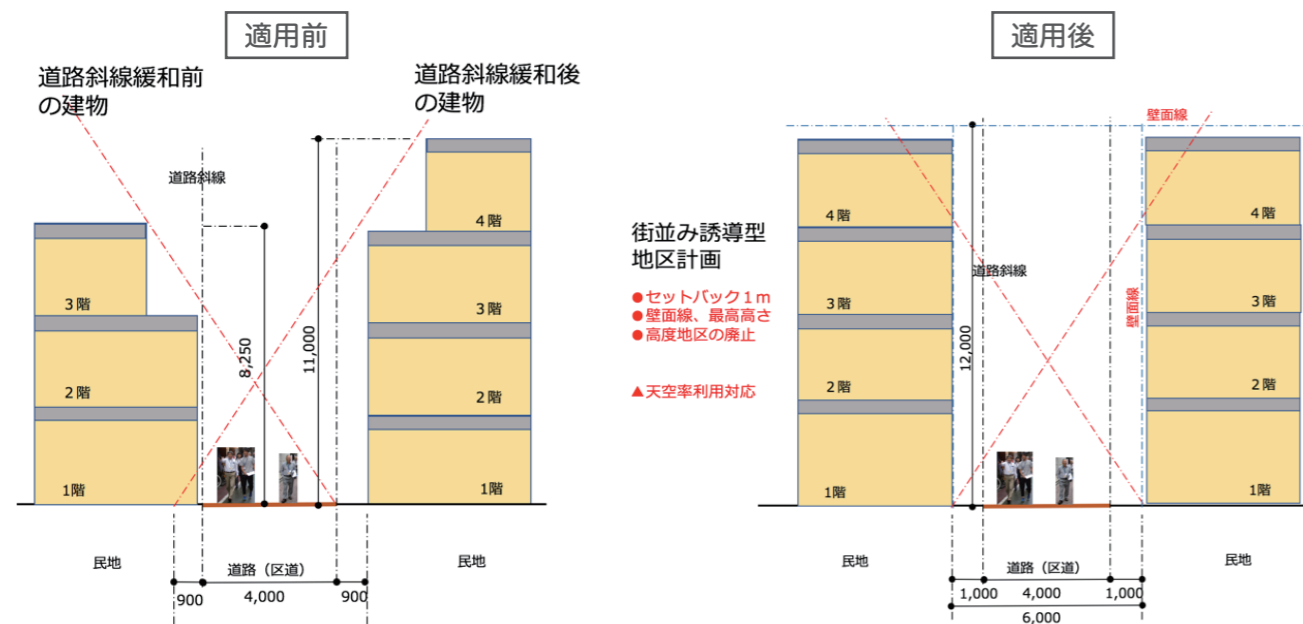
- ・広場整備にあたり、ワークショップでの検討内容を検証する実験
- ・パーク & ライド等を用いた公共交通機関の利用促進を図る実験
- ・オープンカフェ等の道路空間の多目的利用を図る実験

街並み誘導型地区計画

街並み誘導型地区計画とは、地区計画で建物の壁面の位置と建築物の高さの制限等を定め、さらにその計画に基づいた区の条例を制定することにより、建築基準法の制限である前面道路による容積率制限や道路斜線制限の緩和ができる制度です。

賑わいを連続させるために建物の用途の制限を設けたり、連続した街並みとなるように建物の高さ制限を設けることができます。また、賑わいの創出のため、セットバックした軒先の場所をちょっとした休憩場所やオープンカフェなど人が滞在する場所として活用することも考えられます。

密集市街地においては、道路沿道の狭小敷地に対して、これらの新たな制限と制限の緩和を適用することで、区画道路や生活道路の拡幅整備と沿道建物の建替えを一体的に進められるとともに、高さや壁面の位置が揃った街並みの形成が期待できます。



道路斜線制限により、建物上階部に建築制限がかかり、街並みも揃いになります。

前面道路による容積率制限や道路斜線制限が緩和され、建てられる容積も増え、街並みも揃います。

エリアマネジメント

まちの魅力を高め維持していくには、「つくる」ことだけでなく、その後の「維持・管理・運営」も含めて考えてまちづくりを進めることが大事です。エリアマネジメントは、「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み」のことです。

幅広い問題解決やまちの活性化と改善に加えて、人をひきつけるエリアブランド力の形成を目指す取り組みのことであり、イベントや情報発信などのソフト主体の活動を軸として積極的に行う取り組みのことであります。

【活動内容】

- まちの情報発信
- まちの清掃・防犯
- 地域のルールづくり
- コミュニティづくり
- まちの賑わいづくり (イベント・アクティビティ)

【メリット】

- 快適な地域環境の形成と維持
- 地域活力の回復・増進
- 資産価値の維持・増大
- 地域への愛着や満足度の高まり

ルールづくり（自由が丘商店街の例）

地域が主体のまちづくり組織「ジェイ・スピリット」があり、「自由が丘地区街並み形成指針」を作成し、建築確認申請の手続き前に「ジェイ・スピリット」に打診する仕組みになっています。

街並み形成指針とは、自由が丘地区の住民や商業者らが街づくりや景観形成に参画、協力していこうという意思と願いを表明したものです。法的な拘束力はありませんが、事前の計画段階で協議に来ていただくことを強く希望し、建築行為など計画される方々が協力することにより、自由が丘ならではの街並みが育まれています。



【街並みへの取り組み例】

- ・店内の様子や人の動きがうかがえる低層部
- ・通りに開いた店先や小さな半公共空間が楽しい賑わいの連なり
- ・軒先、屋上にも花や緑が見える街並み
- ・通りに面する軒先、壁面線が連なりをもった街並み
- ・連続した歩行環境が確保された通り沿い

コミュニティカフェ

コミュニティカフェは通常のカフェや喫茶店とは異なり、利用者同士が交流したり、情報交換したり、つながりをつくることを大切にしている、子どもから高齢者まで誰もがふらっと気軽に立ち寄れる居心地の良い場所です。雑談のために寄ったり、困っていることを相談しにきたり、やりたいことの仲間を集めにきたり、カフェ的な空間を活用してまちづくりや地域活動を行う地域の交流の拠点です。

みんなでつくる明日のしもたかブック

2021年7月 第1版 発行

発行者 下高井戸駅周辺地区街づくり協議会

東京都世田谷区松原 3-30-12
TEL 03-3322-5945
FAX 03-5300-3347
URL www.shimotakaido.net

